

事 務 連 絡
平成25年5月21日

公益社団法人 日本医師会 御中

厚生労働省 健康局結核感染症課
雇用均等・児童家庭局母子保健課

妊産婦健診等における母子感染対策について（情報提供）

昨年から風疹患者の報告数が増加し（5月15日時点で6,725例）、先天性風疹症候群と診断される症例も10例報告されています。また、風疹に限らず、母子感染全般に関する啓発は、非常に重要であると考えられます。

こうした中で、今般、母子感染に関する啓発を目的に、公益社団法人日本周産期・新生児学会及び公益社団法人日本産科婦人科学会より「赤ちゃんとお母さんの感染予防対策5ヶ条」がまとめられたところです。

これを受け、今般、公益社団法人日本産婦人科医会、公益社団法人日本看護協会、公益社団法人日本助産師会及び全国保健師長会あてに、別添のとおり事務連絡を発出したところです。

つきましては、本件についてご承知いただきますようお願い申し上げます。

別添1： 公益社団法人日本産婦人科医会あて事務連絡

別添2： 日本看護協会、日本助産師会及び全国保健師長会あて事務連絡

別添3： 「赤ちゃんとお母さんの感染予防対策5ヶ条」

<http://www.jspm.com/topics/data/topics20130515.pdf>

事 務 連 絡
平成25年5月21日

公益社団法人 日本産婦人科医会 御中

厚生労働省 健康局結核感染症課
雇用均等・児童家庭局母子保健課

妊産婦健診等における母子感染対策について（情報提供）

昨年から風疹患者の報告数が増加し（5月15日時点で6,725例）、先天性風疹症候群と診断される症例も10例報告されています。また、風疹に限らず、母子感染全般に関する啓発は、非常に重要であると考えられます。

こうした中で、今般、母子感染に関する啓発を目的に、公益社団法人日本周産期・新生児学会及び公益社団法人日本産科婦人科学会より「赤ちゃんとお母さんの感染予防対策5ヶ条」がまとめられたところです。初回の妊産婦健診など早い段階での説明等に、これを適宜ご活用下さい。

つきましては、本件についてご承知いただくとともに、貴会員に周知していただきますよう、よろしくお願いいたします。

別添：「赤ちゃんとお母さんの感染予防対策5ヶ条」

<http://www.jsnrm.com/topics/data/topics20130515.pdf>

事 務 連 絡
平成25年5月21日

公益社団法人 日本看護協会
公益社団法人 日本助産師会
全国保健師長会

御中

厚生労働省 健康局結核感染症課
雇用均等・児童家庭局母子保健課

妊産婦健診等における母子感染対策について（情報提供）

昨年から風疹患者の報告数が増加し（5月15日時点で6,725例）、先天性風疹症候群と診断される症例も10例報告されています。また、風疹に限らず、母子感染全般に関する啓発は、非常に重要であると考えられます。

今般、母子感染に関する啓発を目的に、公益社団法人日本周産期・新生児学会及び公益社団法人日本産科婦人科学会より「赤ちゃんとお母さんの感染予防対策5ヶ条」がまとめられましたので、妊産婦健康診査や保健指導の際に適宜ご活用下さい。

つきましては、本件についてご承知いただくとともに、貴会員に周知していただきますようよろしくお願いいたします。

別添：「赤ちゃんとお母さんの感染予防対策5ヶ条」

<http://www.jsnm.com/topics/data/topics20130515.pdf>

赤ちゃんとお母さんの感染予防対策5ヶ条

日本周産期・新生児医学会
日本産科婦人科学会

風疹ウイルス、サイトメガロウイルス、B型肝炎ウイルス、トキソプラズマなどの微生物は、妊娠中、分娩中、または産後に、お母さんから赤ちゃんに感染して、赤ちゃんに病気を起こすことがあります。

感染予防対策について、正しい知識を身につけておくことが大切です。

1 妊娠中は家族、産後は自分にワクチンで予防しましょう！

風疹、麻疹、水痘、おたふくかぜは、ワクチンで予防できます。^(注1)ただし、妊娠中はワクチンを接種できません。特に風疹は、妊娠中に感染すると、胎児に先天性風疹症候群を起こすことがあります。妊婦健診で、風疹抗体を持っていない、あるいは抗体の値が低い^(注2,3)場合は、同居の家族に麻しん風しん混合ワクチン（MRワクチン）を接種してもらいましょう。（麻疹は流産の可能性がありますが）

注1：妊娠中でもインフルエンザ不活化ワクチンは安全かつ有効とされています

注2：HI法で16倍以下、EIA法で8 IU/ml未満

注3：妊娠中の麻疹、水痘、おたふくかぜの感染の赤ちゃんへの影響はまだ分かっていません。妊娠前や産後に抗体を検査し、抗体を持っていない、または抗体の値が低いときは、ワクチンを接種することで感染を予防できます

2 手をよく洗いましょう！

手洗いは感染予防に重要です。特に、食事の前にしっかり洗いましょう。

調理時に生肉を扱う時、ガーデニングをする時、動物（猫など）の糞を処理する時などは、使い捨て手袋を着けるか、その後、丁寧に手を洗いましょう。

3 体液に注意！

尿、だ液、体液などには感染の原因となる微生物が含まれることがあります。

ご自分のお子さんのおむつでも使い捨ての手袋を着けて処理するか、その後で、丁寧に手を洗いましょう。また、家族でも歯ブラシ等は共有せず、食べ物の口移しはやめましょう。妊娠中の性生活ではコンドームを着用し、オーラルセックスは避けましょう。

4 しっかり加熱したものを食べましょう！

生肉（火を十分に通していない肉）、生ハム、サラミ、加熱していないチーズなどは感染の原因となる微生物が含まれることがあります。妊娠中は食べないようにしましょう。生野菜はしっかり洗いましょう。

5 人ごみは避けましょう！

風疹、インフルエンザなどの飛沫で感染する病気が流行している時は、人ごみは避け、外出時にはマスクを着用しましょう。

子どもはいろいろな感染症にかかりやすく、子どもを介して感染する病気もあります。特に熱や発疹のある子どもには注意しましょう。